

母と子のにわ

—利用者みなさまと母子医療センターをつなぐ—



第19号

2008 Summer

目次:

水韻（見て）、インター ネットブース（使って） 楽しんでください	1
絵画13点を ご寄贈いただきました	2
仕事紹介 言語聴覚士	3
がんばり屋さん	4
産科医療補償制度の お知らせ	5
ことばいろいろ メディカルクラーク	5
センターからの お知らせ	6



すいいん

水韻（見て）、 インターネットブース（使って）楽しんでください。

母性外来待合室に「水韻」を設置しました。虹のように移り変わる光に、まるで本物のクラゲのような人工生物が、ふんわりと漂っています。そこには「ほっ」とする心地よさ、くつろぎをもたらす不思議な魅力があります。待合室に、ほど良く調和していると思いませんか。是非、「癒し」のひとときを楽しんでください。

「水韻」は小児外来外科系待合室にもあり、今回の「水韻」は2台目となります。1台目は子どもさんに大変よろこばれており、2台目も、お母さん方に可愛がっていただきたいと思えます。

また、母性棟3階のディールーム前に、患者さんが自由に使えるインターネットブースを設けてみました。日常の情報収集等にお気軽に活用して楽しんでみてください。なお、現在の図書室横に開設を予定している「親と子のとしょかん」内にもブースを設けていますが、これは、としょかんの開設に併せて使用していただく予定にしています。

この「水韻」と「インターネットブース」は、国際ソロプチミスト堺様からご寄贈いただいたもので、先頃の8月7日、多くの会員様の参加をいただき、総長感謝状の贈呈と、オープニング式典を行いました。インターネットブースのオープニングでは、いただいたパソコンを使って、母子センターのホームページを検索するなどのデモンストレーションを楽しみ、「水韻」のオープニングでは、国際ソロプチミスト堺の会長様と藤村総長が「水韻」へのスイッチ点灯を行い参加者全員で人造クラゲの誕生を祝いました。



発行
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター



（総務人事グループ 三澤九壽男）

絵画13点を、ご寄贈いただきました。

8月19日、当センター地下1階の廊下に素敵な画廊がオープンしました。通路壁面に日本画家の長谷川保枝さんの遺作13点を展示しています。



長谷川さんは、1915年、大阪市に生まれ、日本画家として長く高槻市でご活躍され、新美術協会副理事長などの要職を歴任されました。内閣総理大臣賞や大阪府文化功労賞など多数の受賞歴があります。代表作品として「長谷川保枝画集－藹藹」「長谷川保枝歌集－辰砂紫」などがあります。

展示したこれらの作品は、2008年5月に開催した「長谷川保枝遺作展」の作品の一部で、長谷川保枝さんのご遺族のご好意により、当センターに寄贈いただいたものです。

8月19日のオープニングには、長谷川保枝さんのご遺族をはじめ、新美術協会の方やお弟子さんなどをお招きし、総長ともども、展示した絵画を十分に堪能しました。

いただいた作品には、畳一畳を越えるものが数点あり、見る者に大き

なインパクトを与えます。一方、小さな作品も大きな作品群に負けまいと、精一杯の存在感を主張しています。

それぞれの作品には、「春酣」「昼閑」「楽園」などの漢字2文字の題名がつけられており、題名が示すとおり、ほのぼのと、ゆったりとした気分を与えてくれるような気がします。

各作品はそれぞれ力作ぞろいで、13点ものまとまった作品群は、殺風景な通路を大変魅力的なものに変化させました。このすばらしい作品を患者さんにも楽しんでいただくため、通路の一部を「長谷川保枝の世界」と名づけ、常設展示しています。



季節はまもなく秋です。まさに芸術の秋にふさわしい通路が、当センター内に誕生しました。是非、地下1階にお運びいただき、文化の薫りを味わっていただきたいと思います。

(総務人事グループ 三澤九壽男)



大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

1. 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
2. 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
3. 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
4. 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

しごとしょうかい げんごちょうかくし 仕事紹介「言語聴覚士」

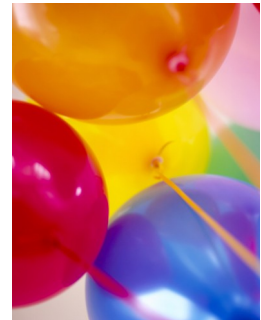
あなたがいつも話している（知っている）ことばは、いつごろから使っていますか？そんなこと考えたこともない？ヨチヨチ歩きの赤ちゃんは、特別な練習をしなくてもいつのまにか話せるようになっていきますね。そう、「ことば」って自然に覚えるし、全然意識しなくても話せるようになります。

でも「ことば」を話すためには、耳で聞いて、その意味がわかり、覚えておかないといけないのです。また、話す時には、聞く人がいて、言いたい気持ちがあって、話す内容を考えて、ことばを選んで、正しく（文法通りに）並べて、息を使って声を出し、口を動かす。こんなにたくさんの動作のつながりが必要なのですから、実はとっても難しいことなのです。

もし、病気や事故のために急にことばが言えなくなったり、話しかけられてもその意味がわからなくなってしまったら…、どんなに困って不安な気持ちになるでしょう。そんな時、言語聴覚士はこの難しい動作のつながりのうちのどこが「故障」しているかを調べます。そして、ことばを取り戻すための訓練（リハビリテーション）を行ったり、ことば以外で気持ちを伝える方法をいろいろ考えて、使ってみたりします。

また、子どもが2歳近くになってもまだおしゃべりが出来ないとか、病気や障がいのためにことばを覚えるのに長い年月がかかりそうだとわかることがあります。そんな時、耳がちゃんと聴こえているのか、発音する時に使う口（唇や舌など）が十分に動くのか、ことばの意味はどれくらいわかるのか、などを調べます。そして、その子が育っていく順番に合った遊びや、話しかけ方などを考えてお母さん達にお話します。また、その子どもが話せるようになっていくのを両親と一緒に見守っていきます。

言語聴覚士は、母子センターのような病院、保健センター、福祉施設、小学校などいろいろな所で仕事をしています。



（言語聴覚士 峪 道代）

がんばり屋さん

内野 恵巳子さん



内野 恵巳子さん

ピア・カウンセリングってご存じですか？ピア・カウンセリングのピア（Peer）には「仲間」という意味があります。同じ悩みや不安、また病気や障害でも当事者やその家族が互いに共通の問題や課題について体験や経験を話し合い、学び支えあう活動です。

私の息子は16年前、胎児診断で心臓病とわかり、生後すぐから4才まで3度の大きな手術をのりこえました。当時は胎児診断で心臓病が判明することは今ほど多くはなく、誰に相談したらよいのかわからず不安な気持ちを持ったままの出産でした。産後まもなくの手術で、一時的な回復はしたものの退院後は家の中ばかり、他とのかかわりを持つのがおっくうで孤独な育児だったことが思い出されます。

私のそんな気持ちを柔らげてくれたのは、同じ心臓病児を育てているお母さんの存在でした。

病児の子育ては外とのつながりを自ら持たなければ、日中はひとり思い悩む事が多く、希望をもつことすらできずマイナスな意識の中で苦しんでしまう、私同様 そんなケースもよくある事です。昨今情報があふれて人とのかわりを持たないでも生きていける時代ではありますが、病児の育児ではわかり合う仲間と出会い、親睦を深めていく事も大事ではないでしょうか。

同じ立場の方との交流は、ピアとしての連帯感を生み出し、お互い頑張っ て行きましようと言う、病気自体を前向きに考えて、よい方向へ導いてくれます。仲間との交流こそが、まさしくピア・カウンセリングの原点なのではないでしょうか。

私はそのような自らの経験や視点からピアカウンセリングの必要性を感じ毎月1回、3階西循環器病棟にて病児のご家族の方と面会させていただいております。1回につき3～4名、時にはグループでミニ交流会のようなこともしています。

カウンセリングの中でたいていの方は今の不安な胸中をお話されます。心臓病というだけあって予後や将来への心配も多くあり、どう向き合っていけばよいのかという課題になります。

私もかつて同じ悩みを持っていた事をお話すると、相談者の顔はほころんできます。それは自分ひとりではないという安心感などから気持ちが緩和されるのだと思います。

また、15才になる息子が自分なりに夢をたくさん抱いていて、毎日が楽しく充実している様子をお話し、ここまでの成長過程での子育てにまつわる笑い話や苦労話もおりまぜて会話を進めていきます。

心臓病児には運動制限がある場合もあり、注意深く気を配らなくてはいけない事もあるかと思いますが、運動ができない状態であっても、すべてができないわけでもなく、できることを伸ばしていくといった環境を親がサポートしていく事も大事だとも思われます。

誰しも子育てにおいて大なり小なりハードルを越えていかなければならない事もしばしばありますが 子供の成長がこの上ない喜びへとかわり、また親としても今までの一般的な価値観・人生観を超え、幅広い視野から物事を見ていけるといった幸せも子供から与えられるはずです。

私のピア・カウンセリングは心臓病児をもったという共通点から同じ立場でお話し、一般のカウンセリングのようなものではなく、相談する側と受けて側が対等になって互いに励ましあって共に新たな光を見つけていくことができるよう努めていきたいと思っております。



募集中

がんばり屋さんのコーナーでは、登場してくださる方を募集しています。母子医療センターで治療を受け、現在各方面で頑張っている方をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。

詳しいことは、母子医療センター企画調査室までお問い合わせください。

TEL : 0725-56-1220
(内線3241)

E-mail : kikakusi
@mch. pref. osaka. jp

産科医療補償制度のお知らせ

「産科医療補償制度」は、お産をしたときになんらかの理由で障害を抱えた赤ちゃんとそのご家族のことを考えた新しい補償制度です。

Q いつからスタート？

2009年1月以降に生まれた赤ちゃんから対象になります。
このため、病院での手続きの開始は2008年10月からとなります。

Q 掛け金は誰が支払うの？

分娩機関が支払います。妊婦の方に負担が転嫁されないように出産育児一時金の引き上げが予定されています。

Q 補償対象は？

原則的には体重が2000グラム以上、かつ、妊娠33週以上のお産で重度の脳性麻痺となった赤ちゃんが対象になります。

Q 補償内容は？

看護・介護のために、600万円が準備一時金として、その他に総額2400万円が補償分割金として20年間にわたり支払われます。

Q 原因を知ることはできる？

この制度では、分娩機関に協力してもらい、可能な限り原因分析を行い、その結果をご家族にお知らせします。

(母性西棟 宮川 祐三子)

ことばいろいろ

メディカルクラーク (医師事務作業補助)

メディカルクラークは、平成20年4月の診療報酬改定において、病院勤務医の事務作業の負担軽減を図ることを目的に新たな職種として認められました。

医師の事務作業を補助する目的で、書類記載やオーダリングシステムの入力などの業務を担います。もちろん、メディカルクラークは個人情報の取り扱いについては十分な教育を受けたうえで、現場に配属されます。

医療の進歩に伴い、医療現場では新しい職種が次々と誕生していますが、このメディカルクラークも当センターにおいて初めて採用された職種です。

当センターでは、多忙な医師が患者さんの診療という本来の業務に専念することにより、より安心で安全な医療が提供できるよう取り組んでいるところです。

※当センターでは、医師事務作業補助者をメディカルクラークと呼んでいます。

(医事グループ 安井 義市)



母子センターは
「産科医療補償制度」
の登録病院です。

2008年10月より登録
手続きを開始します。

お問い合わせは
財団法人 日本医療機
能評価機構
03-5800-2231
(土日祝を除く
午前9時～午後5時迄)





地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立
母子保健総合医療センター



〒594-1101
大阪府和泉市室堂町840
電話 0725-56-1220(代)
Fax 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

センターからのお知らせ

オストメイト対応トイレを設置しました。

母子医療センターでは、オストメイト（人工肛門などのストーマ保有者）の方々が、安心して母子医療センターにおいでいただけるように、1階総合案内横のトイレを改修し、オストメイト対応のトイレを設置しました。
お気軽にご利用ください。



大阪エヴェッサの選手がやって来た～！

9月3日に日本プロバスケットボールリーグ（通称bjリーグ）に所属する大阪エヴェッサの堀川竜一選手と早川大史選手が母子医療センターに慰問に来てくれました。

大阪エヴェッサからの訪問は今回で2回目。1回目は今年の3月にダンスチーム「bt」の皆さんがダンスを披露して下さいましたが、今回は10月のシーズン開幕を前に、選手が来てくれました。

身長205cmの早川選手と身長191cmの堀川選手の背の高さに最初は驚いたものの、サイン、写真や質問にも気軽に応じてくれる両選手たちに、入院患者さんはもとより、ご家族、病棟のスタッフもすぐに打ち解け、たいへん盛り上がりました。

大阪エヴェッサは2005年に開幕したbjリーグで只今3連覇を成

し遂げている名門チームです。今年もチャンピオンを目指して両選手のご活躍をお祈りしています。



天上にも手が届く早川選手



母性西病棟の皆さんと

病院ボランティア 募集中

あなたも母子医療センターでボランティアをしてみませんか。興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

大阪府立母子保健総合医療センター
企画調査室

0725-56-1220
内線3241

